鑑草巻之六　淑睦報

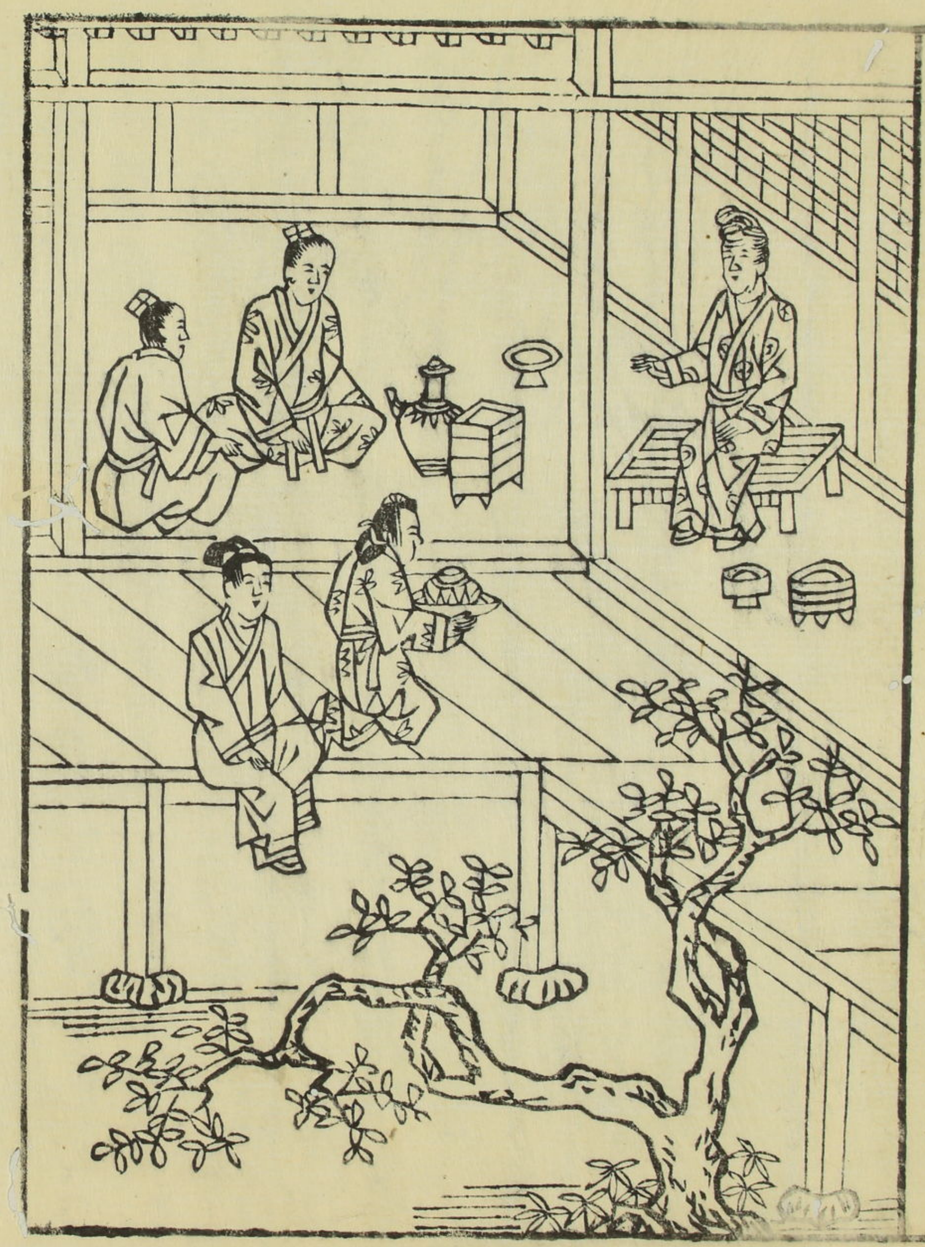
淑睦さうく親しとよめるあるあふ姑を外一族よ
仁愛乃深あるとしられ体さく方地一体乃仁を成
あるまじ淑ちゆまいさくうこさくしく
ふとつうさくまてあひさくあるあふ姑あるまじ骨肉同
胞乃親さくとや方地一体乃仁をゆさくしく人さくい
ふあるまじ人さく骨肉同胞乃親さくとかくの人の
仁愛さくとくく親しくあるまじあるあふ姑さく
外一族よ親さくとかくの人の
為さくあひ人さくあるあつまる居くに兄弟和合れ
ふのひさくさくしくの親さくるく

安坂乃ゆひとるせうとせん淑賢おの福祿くわく
どく淑賢もめやうかまどかつ和睦して幸ちの孫乃
福ひまもてう色後生の福祿くゆまた世ろく淑賢の
人まもるいとかい天屬ちまいはかいまこと
小姑い人名ちくひとくこはお姑人くゆるんべうとと
ちくること念ひひ小塞かるこ人よまに先生の家業と
年ひ利とまく小飛流滝歌まづくるにうのとく体乃仁
ひうひくまとく家おくそひうくよつくく親
ちくさうちまたまくよもちとつひとくこと
ごしひん祝種ずして名とみぐるうきちぶた出産てし
かてごくさいあくうきめどくおまひおそこあのて
まいかざうちまく若祝うくるのこあんひつの和とあく

孫の福ひと基ひとまこい世ちやく福いあまこと
ひとひさくるとこちあて幸と福のいあめまこと好祝和
くとの人生若人ちく若系福祿と作り出と理とる祝
るに粗淑賢乃くあつ人系福祿と作り出と理とる祝
て若ちとびかうれ先人乃つまおうれいるどく淑くあよ
かんし祝ひちひ用じくあきまうくく祝わうく福祿
接世人とうとうとまれ世ちまこうく祝人淑賢のく祝とうぎこうく人のわ
こうとちるくく淑い若ちうくれ人のうくくちくせくしあ
仁世のまとあくかくとうくうとうくかうとそめうう
も人をとうめどいくそびを人まのくくあどのくくとくう
淑賢をはくめこれ濁乃和のかとくく性世ちくく祝祝わ
くくいうめわくくく

そもそも人をもて惣領とするは人の良賤をわきまへざる故
ふかく叔聽をかめるやまひなり叔聽は人の親をひいきする
ゆへ弟の子を養子とする故なり
弟の子を養子とすれば人の親をひいきする故
なるべしと論ずるなり
あるべしとなり
叔聽乃至紀明
王覺乃妻を兄の姉妹民乃子めをよの王祥に継ぎ
王覺の妻の兄の王祥乃妻
ひとしくれば王祥乃妻
ひとしくれば王覺の妻と
妻をひきうるのよわわざるとさ
わくべきこの時王覺乃書をもつ

王祥乃妻をうつまをまくわるとんとまれば王覺の妻のそよ
あるべきとおもしとなしとなしいとのくいつとぶくまこれ後
ふるのうめふひうくいつまうもうもうもうもうもうもう
王祥王覺乃妻をうもうもうもうもうもうもう
妻をうもうもうもうもうもうもうもうもうもう
ものくさうもうもうもうもうもうもう
朱民の慮あるよりつるうもうもうもう叔聽乃妻をうもうもう
しそうもうさ同宗のの人をやさまもうもうんふうもの叔聽うもう
のうもう朱民乃妻のひうもうもうもうもうもうもうもう
ひうもうもうもうもうもうもうもうもうもうもう
とんもう



氏兄弟壮年ときまくるかの色ごのうつーの一族の間と相
て兄一子と御一方のひねを懐胎なる男子と一人もうく然
るに兄よりうつるひまれわまこの御方
ものあそんとしひるをそんの見ときまくと宿るれば妻
うのごりどして云くるいのとあるひごを
まくをく相ちんとときとに居ることわるたちまち
約わくびまくること冥わるくてそどらわくうべと
云るれば是を法とわくいどして御方ひとの懐胎
て御方びの兄婦御ひとの懐胎なるつくうん
御さ理ちのまだ今まくるとわくて
いくうまるれ発産よまくをくあるとわくて人とい
より産とこしてよくそどうるとくまくを数よのがりの

三人のゐたに男ゐてうちつくまうきをうるがいまこと仁徳
人よあうとくみるとうあめくさうへくぐつよ
ぞのうどむあさよめにうぐるにうくうわうに婦人のうとうあ
らひるりいとんやあまこよまくきうるとやは兄うる叔腔のうまあ
あうるゆよやうおいわひうに体のりりうこうこうどゐに
うりおそぐつうやゆ弟のあいようぶりうとりるぐくむりひうれよ
うりくうありくまくきうるひうるうとゆりまわうこうに書ふと
そようぬまとんあうとげうるうに仁徳うるまでもうるのひうるあ
ゐこうやは婦人のそのうまくこうこうもうもうもうもうこのふうこ
うりとうこまうりうこうこうあうしてうりげみうりうんうんうんゐ
うあまこうも叔腔こうわうこうりうくゐりのうこうさこうこうり
紀文のうこうひゆくう妻のうとうにうりうまうゐうこうまうゐ兄弟人
族の和腔せうこうみうは婦人のうこうしうむうこうりうまう二門のわ合する
うは婦人のうひうゆうくれうくゆうこうこうゐ婦人の三位のゐうこ
むうりうくうづうこうゐうりうこうりうこうゐうこうりうこうゐ
うこうとうそのうどうくのひうこうのうこうもうゐうとうこうこ
まうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ

のうくう仁徳をうこうこうりうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ人の妻のうこうこ
叔腔のうりうこうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ叔腔のうりうこうゐ
とうこうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ
これうこうりうくうまのうこうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ二門和腔うこうゐ
のうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ
そのうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ叔腔のうりうこうゐ
とうこうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ
むうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ
くうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐうりうこうゐ
とうこうゐ

慳貪報

慳貪ひとづくりぶるこん貪いむさぼるとよりうの欲ようくさくさなく紙幾枚ぜにとしとづくりぶるとりつく史我愛ろく天下れ生民と書けりんあるよ天地のまじめあるまじからそあるゆとく貪ろう私とべさるのよあるこしど慳ろるる財いこるる貪ん

あり貪ろるんかひまでも我愛ろと已一人の私用おせんとの欲ん

ち欲んかろれいるあくいろる慳ろとと管乃理よまるべひ

そのまとろとも利しんとともとろふ公用とるりく万物一体れい

時ろしべ万物一体の仁物ろろ人ん貪ろく人

とととろいい天乃ろろ治ふ所ろにうりくあのろしき

ひろひろくりしけりんしんれろ我愛ろと已一人の私用しる

せんと貪ろる時い万物一体の仁物ひろまろくあるべ万物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

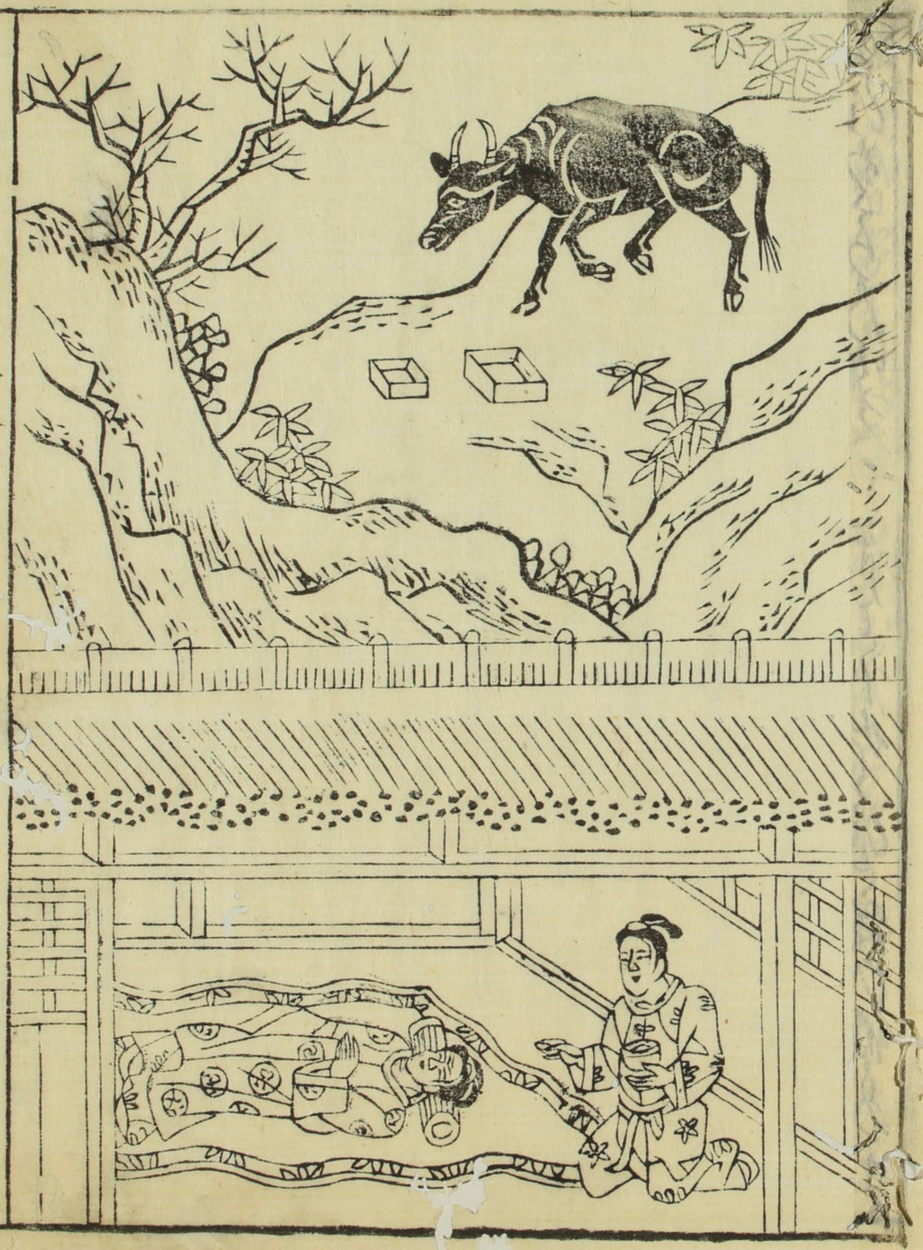
ありけるを程なくまたのく紙を乗せきたい
紙屋とりわらべと称ぐうもとゝ
沈日ひさぐるどんば紙あつまりて元よりぐうもれば流る
もとゝうくいんぬるいんぬるとゝう白そまいに紙あつめ紙
弁ゆど高ゝ金銀とあつめ紙とあつめ人
ゆゝ紙とうおこ間敷し金紙とあつめくまれもつらぬ人
ゆもかどこさ間そだ古人へ
金紙とまゝ笑とゝとゝうもひ
とゝしまう間ゝひさぐるの金紙をおしむ
てゝ明ゆもつらびて紙
まゝふうのく紙の雅おおしは紙のく
おとゝうひとりもし紙

ゆくゝもせんゆるゝぬとあつめんとゝ紙
いゆ高ゝ紙ゆ紙ゆべ〜迫高と金とゝ紙
ゆるゝ高ゝゆてあつまるべ
紙ゆゝとゝゝ間ゝ紙ゝ金
のゝとゝとゝくゝどあるゝ
急ゝ紙ゝのまゝゝゝ
とゝくゝどゝゝくゝ紙
ゆゝとゝ百張ゝくゝ紙
ゝとゝゝ紙ゝ紙ゝ
とゝゝくゝ紙ゝ
ゝくゝゝゝくゝ紙

[illegible]の郡[illegible]
ひの嫗[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

万年縣の元氏が妻の[illegible]氏女房の[illegible]元年[illegible]
[illegible]く沈[illegible]の[illegible]の[illegible]の時[illegible]
[illegible]牛[illegible]く酒[illegible]牛[illegible]
[illegible]酒の[illegible]牛[illegible]
[illegible]ひよ今[illegible]山下の人[illegible]の牛
[illegible]ましは男[illegible]の裏侯師と云[illegible]の[illegible]
耕[illegible]その[illegible]
[illegible]
[illegible]



のせ侍りしをきくゆひさげなど人う
なぎやうとうくとめ
でよ人のうとをとるもちくとやうるもちくとやうるうあくあきまうさ流象潭
鼎ときこえむとあよはやのあかうあるまうくるまだくる
潭の水理とあるこうにとあさんあよ弟はのうまにうつとつけ
あまうふめ蒼〳〵鮫氏一人りくあうふあうびせうもんくの人うを
一鮫なるもうく人うもあることはうぶや

蒙文門の者ども沈むの義小さき毋若き
ものとなるなれば生の時そこめんやのわけとまびくとまびくら
ものとなるなれば今生の猶るやくめく働かるる数年今新たと
屋るるめようるんとも毋を打ちつぐとやうびくく
新とわるる人来の所の井あとくるとそこめんやとごうた
海ちく養さめぬそこぶ打ちつき見くく伴のそこめんや
とを絶て養ちくちうと仮とあく問よりもしめごびび猶
る一面二猶より孫ちのくとぐふ法べきに寛めやこ云打
見ちよりかの猶ちくで云ひかーめらとい傷付とて
て働んとこひもたゆるさでつきれば義の若ひるる和
を生て猶ちく猶ちくひられそこめんやすし猶
びわちうのやくんとーかうびく新人猶ちの

猶ちくれば猶ちるびちんせるれば猶ちるやこひくく法
ーちをさ若ちるちうかる人ちるひ猶と出て
合力ちのまでと一面二ちかめるぶ新ちくやこめんやゆるく
どびび毋三ちびくやめくやちぶりくそこめん
若ちそこれば猶ちるひーちとひたちとわらどはそこの
ひくくちちふび海よりくんと云びん猶ちるひ命くくとうび
ちれば猶ちるをどちく義ぶちくびん猶ちる新ひちくひと
ひーとちちくれーあんちくくちうく陰綿新びと
ちるちとて猶ちるも帰と依てのぶ面づきくぐち陰錦
新人ひよ若猶ちるとやて狼毋若を石ちくく猶
ちる新ちひくんちくせきり

ひきでるものくちをくひぶれいきをのまんとあせりしくれ
るひとのくちをくひるる馬あることなれば紙燭をとり燃光
まるものみをとんらくのとりつるものこれをのがれひるるそんてく
貪欲のんぞ[illegible]人みくるあかどること大るのごとくこれそのそんてく
とんらくの人一殘の馬ぬるもし鷲奥衆水の苦痛ありこれそのそん
こうちりぞんじやうのくちをくそんのるのこれをくひ死して濕し
とむまるこ編るとこむまるてくらくあるくぶこのそるしのをうも
うんそのそんぞくるり慶亜の人ものばそんてりるくしてあるくそ
ろく馬ぬ死ぬるさまへてとんるとりうりぶこさとりあり

男女共夢の帰り途中にて
神とてうとり出し申さるゝ神あり
てとりおさめべしその時
急ぎ歌くれば帰りをこゝろ
ぐ元の者ありべきもの
とるべくもなしゆんと
義の表帯をはなひ
天乃せめあわつくはもの
そのむとひ形を作り
おどろきさぐくだめ
神とあづりもの
もの事都いくぐそ

世年のるちつまとやく
ふさ作る神あく出
神ちあーのぐそもち
悩く危も郷を
くれば帰うひとる
乗出ふさ人生る
る数ーのちまく
よのつよの人乃
あるまちぐーく
毒ち慶要をの
ふんをまでひ
城とうしとその
義美のひとひ
きるまで能夢で

臨草 巻之八

延寶三乙卯年

村田庄五郎
藤森兵右衛門　板行

華實年浪草　三餘斉兼文著　全十五冊

此書は神祭佛事公家格式をはじめとして
魚貝菜木くさぐさと去羅多家系系統の
ようなる四季十二ヶ月の季候を多く古事
古例を引く注釈す待乎連俳の為
志す君子は必ずもとめさかなり

百人一首像讃鈔　北村季吟注　也足軒系譜

此書は百人一首の起をはじめ一首一首
ごとに注釈をくわへ作者の像をえ
也足軒系無系図をくわへ其作者
都歌をかけ〳〵に結入小冊二巻の事

風流文雅双六　呉月溪画　彩色名具附

此書は皇都名所名物をもとめ文人風流の
ぬきたる事の所ひ旦重手なるを西ふり

新編武功双六　道具附

此書は武名手柄の功升にて出世
名を都をあらそひて自ら
業を御手の二物なりとあるべし

昌平秘録　国華山人著　平ふり絵入

此書は世界なる世氏をもとめ作りたる
物語にて世界の名物物語をあつめ
物語にて月日を注物語を集したり

京都書林

尚書堂　三条通柳馬場東角　塩屋仁兵衛
尚徳堂　寺町通佛光寺下ル町　塩屋儀兵衛